

植物の記載に使用せられる術語の羅和辭典をかねるわけであるが解説が簡單であるから初學者には眞意をつかみ得ぬものもあるであらう。第七は著者名表で學名をつけた學者の名前とその略名とを對照したもので國籍と死亡した年を並記してあるのも便利である、近年活動をはじめた支那の學者が全部はぶかれてゐるのは淋い感がある、最後の第八は常用略語表でこの頃の最後に諸種の記號がまとめてある。學名の構成法や命名規約の要領などがはぶかれてゐるのは残念であるが、四十數年前に出版せられた大久保、齊田、染谷三氏共編の植物學字彙以來みるべき辭典の一冊もなかつた日本に今日この書を得たことは喜ばしいことである。植物の研究者は是非座右に一本を備るべき良書である。(春陽堂發行、貳圓五拾錢) (田川基二)

野口彰氏：——**臺灣産蘚類考察 2.** (A. NOGUCHI:——Contribution to the Moss Flora of Formosa. 2. in Trans. Nat. Hist. Soc. Formosa, XXIV, 135, p. 469-473, Dec. 1934)

次の四種の發表がある *Duthiella formosana* NOG., *Duthiella robusta* NOG., *Calyptothecium pinnatum* NOG., *Himantocladium speciosum* NOG. 何れも同氏の台灣各地よりの多數の標本により研究されたものである。精しい圖解は非常に嬉しい事である。

デクソン氏：——**滿洲産蘚類** (H. N. DIXON:——Manchurian mosses. in Rev. Bryol. Tome VII, Fasc. 1-2, p. 105-116, 1934.)

M. KOBAYASHI, N. IWASAKI 兩氏の採品を笹岡久彦氏が DIXON 氏に研究依頼されたものの發表である。71種が同定され、新種14 (内一種は本田正次氏の熱河での採品)、新變種1、新組合1がふくまれてゐる。(外山禮三)

雜 報

ハコネコメツ、ジ屬 (*Tsusiophyllum*)

豆南諸島、伊豆半島、駿河、甲斐の地方は相合して一の植物區系圏を成すものなるは種々の特産によりて知らるゝが其最顯著なる代表者は實にハコネコメツ、ジ屬であつた。然るに本屬は遂に南北日本の境界を西に越して飛驒國にあらはるゝ事を發見して此に大なる失望を感じた。(G. KOIZUMI)

植物地理學より見る “日本帝國”

日本の植物分類學者は、よく、The Empire of Japan に於ける何々植物とか、又は Imperium Japonicum に於ける何々屬とか申さるゝが、元來政治區劃は植物地理上の單元ではないから、もう少し植物地理的に云ひ表はされた方が地文學的である。